



三升寺

特 別
子 12
3656
37



412
3656
37



七十九

あやや大恵大少の親世きく
もなごころもくききひ乃未
一絲一念於於三ありまうてや
ほ程りを送るおをりさひたる
たのみのほ清がもるうけうひ
なまごころもくききひ乃未
あにれまたまも入思ひ子れりあ

詞

こゝろなわぬし上は枯らる
何とかなわぬし下は枯らる
木よきよもくく花あはくく
かのけしきいまは木お見とわ
子よ二度おもしろきとせく
あゝみ難やんが寝眠乃うらに
あゝたれおのむを夢見しては
いふづらなむもとみ慰むる

人のんあはきくわらう
うららりやとあひら さか 喉
が寝眠乃うらりあゝたなる
は夢見を夢見して人りの子
あゝんと思ふ三井さへあはれ
あゝうふは夢見を夢見しては
意うけとはあゝん物うぬ

告子但ちて三井さとや〜
八

第

まのりるらん〜
秋もなすら

皆待て〜月よ心や急〜
世

早

是は江州園城寺の住僧よ〜
以

又先よ〜
おきあき人の

通信を教む〜
你人の力あ〜

師弟乃契縁をな〜
尸て人〜

と契冬八月干五〜
契四月よ〜

知とふ〜
お人をと〜

皆と隣堂の庭ふ〜
出月よ〜

りやと〜
ひひ〜
た〜

あなも〜
月お〜
よひと〜

夕を急〜
人心〜
家も〜

も海〜
お〜
成〜
と〜
や〜
〜

よわ月お名た乃む日新かづく
香た〜ハ後度袖をり〜るま〜
花乃ぬ〜きと詠〜くん志変乃
山こえ打るてだ〜めおは清い
湖乃よかてゆは教お山たり三
〜人〜ぬ勢乃清山とや〜んを
〜月乃あ〜お〜む事〜あ〜

あぢのたな〜とも我ハもの
くはふよあぶじやわ〜る〜
〜りりなわあおる教や事教
〜ふも教子おあ〜れ〜志あ〜
〜人乃おや〜
〜あ〜る〜

子^一於^二り^三急^四を^五も^六ぎ^七つ^八る^九象^{一〇}乃^{一一} 乱^{一二}き^{一三}
心^{一四}や^{一五}粗^{一六}小^{一七}らん^{一八} 朝^{一九}於^{二〇}秋^{二一}波^{二二}揺^{二三}て^{二四}
ゆ^{二五}の^{二六}い^{二七} 月^{二八}三^{二九}ぬ^{三〇}あ^{三一}と^{三二}ふ^{三三}す^{三四}み^{三五}也^{三六}
な^{三七}る^{三八}八^{三九}た^{四〇}と^{四一}え^{四二}あ^{四三}り^{四四}人^{四五}乃^{四六}乃^{四七}の^{四八}め^{四九}
よ^{五〇}ー^{五一}た^{五二}あ^{五三}も^{五四}あ^{五五}も^{五六}あ^{五七}も^{五八}月^{五九}も^{六〇}ゆ^{六一}き^{六二}も^{六三}
あ^{六四}は^{六五}き^{六六}と^{六七}に^{六八}我^{六九}子^{七〇}於^{七一}あ^{七二}は^{七三}な^{七四}る^{七五}
田^{七六}舎^{七七}あ^{七八}す^{七九}と^{八〇}よ^{八一}こ^{八二}る^{八三}海^{八四}ー^{八五}し^{八六}ん^{八七}

あ^一は^二き^三と^四ふ^五乃^六らん^七く^八海^九ま^{一〇}る^{一一}
波^{一二}や^{一三}志^{一四}が^{一五}幸^{一六}崎^{一七}乃^{一八}ひ^{一九}と^{二〇}流^{二一}松^{二二}
見^{二三}と^{二四}わ^{二五}子^{二六}於^{二七}我^{二八}ひ^{二九}な^{三〇}る^{三一}の^{三二}松^{三三}風^{三四}よ^{三五}
り^{三六}ん^{三七}ま^{三八}り^{三九}あ^{四〇}る^{四一}も^{四二}あ^{四三}る^{四四}の^{四五}
い^{四六}り^{四七}ー^{四八}橋^{四九}の^{五〇}あ^{五一}な^{五二}る^{五三}の^{五四}花^{五五}蘭^{五六}乃^{五七}
あ^{五八}な^{五九}も^{六〇}早^{六一}く^{六二}可^{六三}き^{六四}な^{六五}る^{六六}風^{六七}冷^{六八}し^{六九}ま^{七〇}
秋^{七一}乃^{七二}あ^{七三}は^{七四}三^{七五}井^{七六}奇^{七七}あ^{七八}ら^{七九}る^{八〇}な^{八一}ら^{八二}わ^{八三}

三井の...
 桂の...
 月よあ...
 やま...
 三子...
 乃乃...
 て...

も...
 面...
 ふ...
 森...
 む...
 か...
 舟...

月結さうはく平の決り舟も
 こゝろ手しこ出らん亦人もこゝろ
 り所らん 面自乃鐘手音やふ
 けり故まよしハ清見寺乃鐘を
 ありつゝのうきさうふれ一ふ見ハ
 又さ〜浪や三井乃古さうしき
 あまきと昔よぬる鐘手あまき〜えん

海やうけ鐘ハあまきと〜母乃

就家上ゆわが〜ぬる〜鐘手なまハ
 就女上の成佛上けぬふさう下をさ〜

上
 ち〜ハも〜をほく〜入下みなわ
 下
 うけハ〜な〜需下あま〜ぐ手

下
 決手きあや〜い〜えぬ〜せ
 何手こぞ。

也あ〜擧〜粒人乃方手〜鐘

次つて
侍く業もあひもよめ事

五つしのきく 三 家原公

梅乃ほりも月ふ跡ぞ

うき乃昔なわ由るさー免

う雅ハあゝ海あゆ人乃言業

狂人のちとて寝ほくはなる

思ひもよめ事ふてあゆる

手付

とて言の月と寝ほく事

狂人そそあひとひ竹ひうあゆ

詩子 下カ いちとて海場を

う カ 海 カ こととて雲を

げ及句なかりも四月り

む 下カ の 下カ ち 下カ なる 下カ す 下カ ま 下カ ひ 下カ て 下カ こ 下カ よ 下カ ひ

一臨満と海先い所連乃所よ

なま〜〜〜
なま〜〜〜

あま〜〜〜
あま〜〜〜

言機子のかげを鐘を流く人々

いふ〜〜〜
いふ〜〜〜

冬ふらやとみ屋人がま〜〜

月ふはれは心ありて

は〜〜〜
は〜〜〜

下
たま〜人々
たま〜人々

さま〜りや法乃る急も志所りふ

先物おれ鐘を流く時ハ

息と響くなわ
息と響くなわ

下
ほ〜く時ハ
ほ〜く時ハ

なわ
なわ

一
一
一

減己
減己

入道ハ

為樂と

一日

なまじきぬや法乃ありたす

山寺結衣おくれきや

のき乃種よ花うらるる

折一めともなと爰おと

ぬるせうけかり曉乃い

惜むまぬくおほい

い急も松お種や

又まらよひふきお

舞きまあぬる種乃香

物のいと節も恋返の

なと清乃うきもの

ズいおひらくは寝覚

いしへかおひ結のゆ

うふもな心乃きひ

まじりしとらうきさめをらんらりふ

一神を依程女おことの國里に

りてくろの夫とてあはう 是に

後河國清見の関乃ものゆてん

子よかに 何なる清見の雲乃夫と申るり

子よ 意中一きやと結お心ほとく状

流るるこもきし一為我子乃子満殿

こきめあはれしめはしりしやん

善 哲也なる程女のうこ流なるを

一者おざれしう物程ゆてん

子よ なふ見の物ゆはくはをぬ物を

物ふくはふもあま放あふ時

何しな程くきあはれし

りの子りしん あはれ あり

カッパとヤウヤウすたらなせし事一哉
カハヨウヨウし乃き久子 あ

也ーヤキ乃こおゆうらるひう

言語乃ヨリヤキよ出給ひては

ま ばよいまおすへよはふ衆人

らハ何をりははむへ衆がわは
駿河の國清見の園乃老なわーの

人商人乃手よ渡りしものはさあ

ありなうははし人我城尋ひ
給ひてはうに粗出給ふは

ト下 由めよもたはにきうぬなわ

又ウへもあよこ家あ事あ乃
鬼よウの形一故な形は遠あひ
かふらう(あ)ーきおまーや

